

庁議の概要

開催日 平成 22 年 5 月 10 日 (月)

◎項 目

- 1 ゴールデンウイーク期間における観光客入込客数について【観光振興部】
- 2 政策広報について【総務部】
- 3 各部局等の動向について【各部局等】

◎内 容

- 1 ゴールデンウイーク期間における観光客入込客数について【観光振興部】

観光振興部から、ゴールデンウイーク期間における観光客の入込客数のとりまとめ結果について説明を行い、意見交換を行った。

【概要説明】

・ 主要な県内の 28 施設では 4 月 24 日から 5 月 5 日までの 19 日間で過去最高の 25 万 8,366 人を記録した。また、土佐・龍馬であい博の 4 会場には、6 万人を越す来館者があり、合計で 31 万 8,690 人、昨年の同時期と比べて 132%だった。

・ 特に文学館や岩崎弥太郎生家、龍馬の生まれたまち記念館、中岡慎太郎館、坂本龍馬記念館、4 月にリニューアルオープンした牧野植物園や歴史民俗資料館には多くの観光客が入場した。一日あたりの最高記録を出したのは坂本龍馬記念館で、5 月 2 日には 6,686 人だった。一方、アンパンマンミュージアム、県立美術館等では入館者数は減った。

・ 土佐・龍馬であい博関係では、5 月 2 日に 4 会場合わせて 1 万人を突破した。連休最終日の 5 月 5 日には、メイン会場のろまん社中が当初予想よりも 3 カ月早く 20 万人を達成した。一日平均は 5,027 人で、1 月 16 日のオープンからの一日平均 2,433 人と比較すると 207%になっている。また、ゆすはら・維新の道社中は愛媛県を中心とした PR 活動が功を奏し、1 万人を超える来館者があった。他のサテライト会場についても、それぞれ過去最高記録した。

・ 交通渋滞対策については、今回は特に桂浜への渋滞が予想されたため、県警や庁内関係課、高知市、高知市観光協会、コンベンション協会と連携して渋滞対策を行った。5 月 1 日から 5 日までの 5 日間、桂浜に入る分岐点で一般車両の通行止めを行い、東は高知新港、西は高知競馬場に全体で 3,500 台分を収容する特設駐車場を設け、そこから無料シャトルバスを運行し、多い日では一日に 26 台を運行した。この結果、5 日間合計で一般車両約 2 万 5,000 台、6 万 7,000 人を輸送した。特にピークの 5 月 3 日は 7,200 台を 2 つの大型駐車場に収容した。これは昨年の桂浜の最大収容台数の約 3 倍に当たる。この結果、春野赤岡線の渋滞は全く発生せず、観光客や地元住民、ビジネス利用者の車両についてもスムーズに流れ、大変評価をいただいた。特にネクスコ西日本、土佐国道事務所、石油商組合、近くのコンビニ、レンタカー協会などのご協力で事前の周知ができ、スムーズな誘導ができた。

・ また、市街地中心部は、日曜市の開催される 5 月 2 日が最もピークと予想されたため、高知女子大、城西公園、警察本部前の県庁駐車場、あんしんセンターの駐車場等を用意し、民間有料駐車場が満杯になった時点で素早く誘導を行ったことでスムーズな交通が確保できた。

・ 宿泊については、5 月 1 日から 4 日まで宿泊予約ができていない方々への宿泊紹介をとさてらすで実施したが、5 月 2 日、3 日は県内全体で満室であったため、紹介する場所がなく、車中泊する方が多くいた。

・土佐・龍馬であい博と土佐二十四万石博と比較すると、当時調査をした 22 施設で 117%となっている。特に高知城は、土佐二十四万石博ではメイン施設だったが、今年の方が 21%も多い。20 万人の達成についても 10 日早い。

【意見交換】

・想定より多くの観光客が来たのか。

→当初想定していた数よりも多くの観光客が来た。新港にも予備として 500 台を準備していたが、5 月 2 日、3 日はそこも開放した。例年桂浜へは 2~3 時間かかるところ、シャトルバスでは 15 分であり、渋滞時間が少なくなったため、来館者には楽しんでいただけたし、空いた時間に他の施設へ移動ができたことで、より高知を楽しんでいただけたと同時に、ビジネスの機会にも広がりが出たと思う。

・渋滞対策等は成功したと思うが、別の見方をしたら、高知にはこれ以上の人はもう入らないということか。

→やり方によってはまだまだ余裕はあると思うが、宿泊施設は満杯だった。

(知事)

・ゴールデンウィークの渋滞対策はいわば高知県観光の 1 つの問題。ピークにすぐ達してキャパシティーを超えるという問題を今回見事にクリアしたと思う。渋滞による不快感ももちろんだが、経済効果としても効果があった。遠隔地まで観光客が増えたのは、桂浜の渋滞対策の効果が出た。

・土佐・龍馬であい博関係で、庁議メンバーの皆さんに申し上げたいことがある。第 1 点目は、新聞は「龍馬一人勝ち」と書いていたが、わんぱく高知や牧野植物園のように観光客が増えているところもある。「龍馬伝効果はうちにはなかった」という言葉をよく聞くが、これは典型的な待ちの姿勢で、実際は「龍馬伝効果が生かせなかった」ということ。たくさんの観光客が入場している施設から、その観光客を自分たちのところへ引き込めるかどうかということではないか。今後の姿勢の問題として、「龍馬伝効果を生かせたか、生かせなかった」が問われていくので、観光施設と関連がある関係部局はこの意識を徹底し、観光振興部はそうなるような仕組みをつくっていただきたい。

・第 2 点目は、土佐・龍馬であい博は産業振興計画のリーディングプロジェクトであり、地産外商をおし進めていくためのツールである。そのために大事なことは、高知県の真の知名度をこの時期にしっかり上げておくこと。どの地域でどんなものが食べられて、そのの特産は何か、などがいろんな人に知れ渡っていくということが重要。そのためにも、県下全域の各施設に足を伸ばしていただくことも重要だが、併せて、直販所で地場産品を食べてもらうなど、多くの観光客にできる限り高知県の PR をすることが重要だ。それぞれの部署で、真の知名度を上げるということを意識していただきたい。

・第 3 点目は、土佐・龍馬であい博を生かして外商機会を増やしていかなければならない。今ならバイヤーの方々も観光客が食べた物や買った物の情報を聞いてくれる。昨年同様、今年も県産品フェアや商談会を進めていかなければならない。地産地消・外商課はもちろん、商工労働部、農業振興部、林業振興・環境部、水産振興部、その他関係部局はこの機会を生かし切るように対応していただきたい。一定の経済効果が県内にあった、で終わらせてしまうのではなく、究極の目的は、産業振興計画のリーディングプロジェクトとして地産外商を達成することだ。

・4 点目は夏以降の対策。龍馬から龍馬以外の本来の高知県観光の売りへ PR の比重を移していくことが重要。土佐・龍馬であい博が成功すれば、地産外商も成功するという良い循環をつくり出していきたい。

2 政策広報について【総務部】

総務部から、政策広報について説明を行い、意見交換を行った。

【概要説明】

- ・4月下旬から5月上旬にかけ、運営方針の中で、主要課題に関する広報計画を出していただき、現在、その計画を、県全体の年間の広報計画案として作業を進めている。その上で、各部局と協議後、平成22年度の主要課題に関する広報計画案を、今月下旬に庁議、政策広報推進会議で協議をいただきたい。
- ・この年間広報計画をベースにして、例えば6月上旬には2ヶ月先の8月の広報計画案を庁議・政策広報推進会議で協議し、情報共有していきたい。
- ・広報ツールを活用した政策広報の状況は、今後運営方針で提出していただいた広報計画を踏まえて協議していきたい。

【意見交換】

- ・県民に知ってもらうのは大変難しい。どこのチャンネルでも一定期間に集中的に同じ内容が流れるという環境が政策広報には必要ではないか。
- ・4～7月までの年度初めは、とにかくこんなことをやっているということを知っている人を増やすことが必要。例えば、新しい取り組みの健康長寿県構想についてはあらかじめ広くお知らせしておけば、今後、民生委員・児童委員の研修会等での理解度が違うだろう。ただ、集中的な広報という視点も重要かもしれない。(知事)
- ・商工労働部の場合は、補助金や支援の広報が中心であるため、ターゲットを絞り込む必要がある。そういう場合は、ターゲットによってメディアを変えていかなければならない。県の広報ツールで広く全体を盛り上げて、個々の具体的な部分は各部局が所管する関連団体の広報紙を使うという方法もある。

3 各部局等の動向について【各部局等】

総務部が取りまとめた各部局の今週の動きに関する資料を配布の上、概要説明を行った。